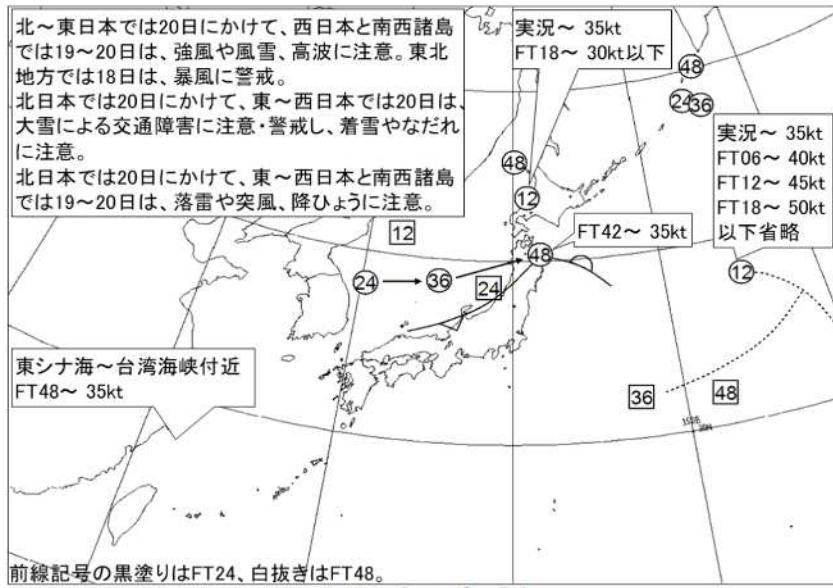


短期予報解説資料 2026年1月18日03時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- ① 前線を伴った低気圧が、発達しながら日本の東を東進。別の低気圧が、北海道の西をゆっくり南下。中国東北区の高気圧が日本海に張り出し、日本の南を別の高気圧が東に移動。東シナ海は気圧の谷となっている。
- ② ①の低気圧と大陸の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、北～東日本では、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなっている所がある。また、850hPaで-6°C以下の寒気が東北付近を南下、北日本では、3時間で10cm前後の降雪を観測。東シナ海の気圧の谷周辺では、やや強い雨を解析。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 18日は、1項①の日本の東の低気圧は、日本のはるか東に進み、北海道の西の低気圧は北海道に進んで不明瞭化。中国東北区の高気圧は北陸付近に移動、東シナ海の気圧の谷はほとんど停滞。また、500hPa 5100m以下で-39°C以下の寒冷渦が中国東北区に南下し、夜までに日本海西部で低気圧が発生。
- ② 19日は、2項①の寒冷渦が沿海州付近に進み、日本海西部の低気圧は、発達しながら三陸沖に進んで、寒冷前線が東～西日本日本海側にのびる。また、夜までに日本海北部に別の低気圧が発生。東シナ海の気圧の谷は、南西諸島付近に進む。
- ③ 20日は、2項②の寒冷渦は千島近海に進み、三陸沖の低気圧が急速に発達しながら千島の東に進む。日本海北部の低気圧は北海道に進んで不明瞭化。南西諸島付近の気圧の谷は日本の南に進む。日本付近は、発達する低気圧と大陸の高気圧との間で、冬型の気圧配置となる。
- ④ 2項①～③の低気圧や冬型の気圧配置の影響で、気圧の傾きが大きくなり、強い風や非常に強い風が吹いて、波が高くなりしける所がある。北～東日本では20日にかけて、西日本と南西諸島では19～20日は、強風や風雪、高波に注意。東北地方では18日は、暴風に警戒。
- ⑤ 850hPaで-6°C以下の寒気は、18日は東日本日本海側に南下、19日は東北地方に北上、20日は西～東日本太平洋側に南下する。北日本では20日にかけて、東～西日本では20日は、降雪が強まる所がある。大雪による交通障害に注意・警戒し、着雪やなだれに注意。
- ⑥ 2項①～③の低気圧や気圧の谷及び上空寒気の影響で、北日本では20日にかけて、東～西日本と南西諸島では19～20日は、大気の状態が不安定となる所がある。落雷や突風、降ひょうに注意。
3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。
4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(06時からの24時間)：北海道40、東北10cm。③ 波浪(明日まで)：東北4、北海道・北陸・沖縄3m。④ 高潮(明日まで)：大潮の時期。北日本では、注意報基準を超過する所がある。
5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。